

# ASA トラブルシューティング ガイド : Syslog 宛先のログがない

## 内容

[概要](#)

[はじめに](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[機能情報](#)

[トラブルシューティング手法](#)

[データ分析](#)

[syslog 設定の確認](#)

[show logging queue の出力](#)

[一般的な問題](#)

[関連情報](#)

## 概要

このドキュメントでは、さまざまな宛先に syslog を送信する適応型セキュリティ アプライアンス ( ASA ) の機能に関する問題をトラブルシュートする方法について説明します。具体的には、次に示すような症状が見られる問題について説明しています。

- Adaptive Security Device Manager ( ASDM ) へのリアルタイム ログインに時間がかかる。
- 1 つ以上の syslog の宛先で断続的に syslog が欠落する。

## [はじめに](#)

### [要件](#)

このドキュメントに特有の要件はありません。

### [使用するコンポーネント](#)

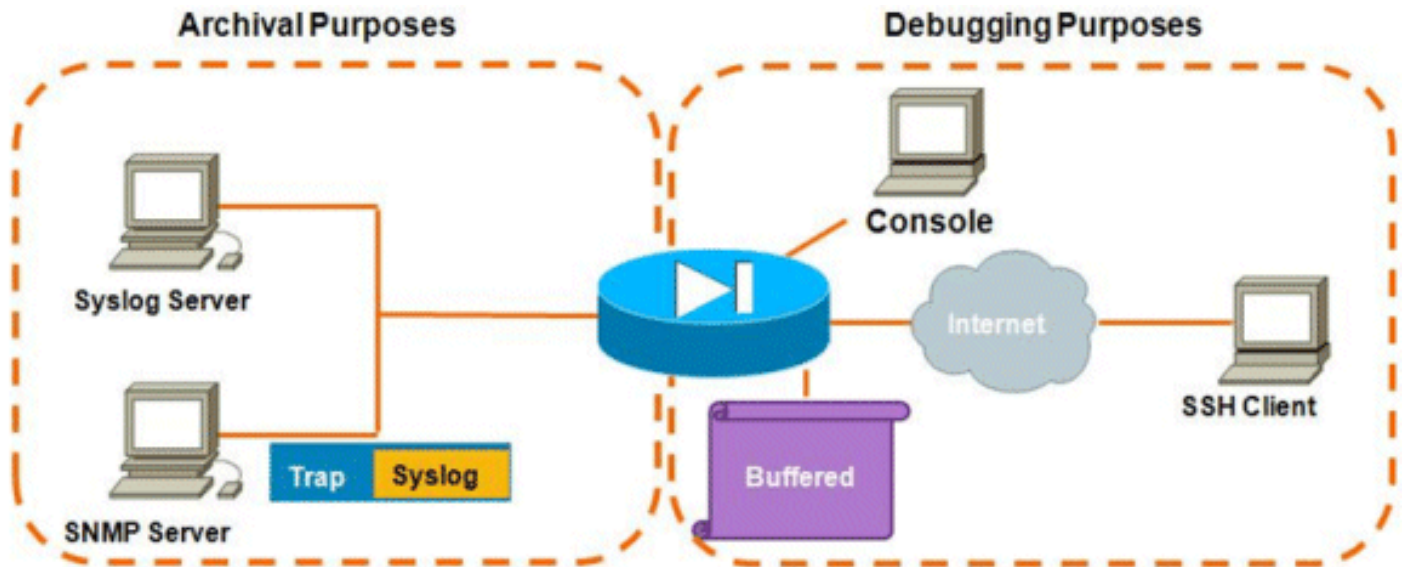
このドキュメントの情報は、Cisco ASA に基づいており、特定の ASA ソフトウェアバージョンには限定されません。

### [表記法](#)

ドキュメントの表記法の詳細は、「[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)」を参照してください

## 機能情報

他のほとんどのシスコ デバイスと同様、ASA は複数の syslog の宛先へ syslog を送信できます。一般的に使用される宛先の一部を次に示します。



実行可能な数の宛先を使用することには、実際の利点があります。注意深く選ぶならば、ここに示すように、これらはその目的に基づいて、大きく 2 つの主なカテゴリに分類できます。

- Archival
- リアルタイムのデバッグ/トラブルシューティング

ほとんどのネットワークでは、1 つ以上のデバッグ宛先が必要な場合を除いて、アーカイブ宛先が有効であれば十分です。同時に、また頻繁に、情報 (レベル 6) 以上のような高いログ レベルで複数の syslog の宛先を同時に有効にすることにより問題が発生します。

## トラブルシューティング手法

1 つ以上の宛先で syslog 情報の損失が生じる問題が発生する場合、2 つの点を調べる必要があります。

- [syslog 設定 \( show run logging の出力 \) を確認します。](#)
- [show logging queue の出力を調べます。](#)

## データ分析

### syslog 設定の確認

次のステップを実行します。

1. 検索する syslog メッセージが `no logging message <ID>` コマンドによって無効にされていないことを確認します。
2. 確認できたら、有効にされている syslog の宛先の数、および各ログがそれぞれに送信され

るレベルを確認します。そのような設定の例を次に示します。

```
logging enable
logging timestamp
logging standby
logging console informational
logging buffered informational
logging trap informational
logging asdm informational
logging device-id hostname
logging host inside 172.16.110.32
```

この例では、ASA は情報レベル ( レベル 6 ) で 4 つの異なる宛先に syslog を送信しています。

## show logging queue の出力

上記のような設定を使用した場合に、複数の宛先が大量のログ メッセージを受信すると、ロギング キューのオーバーフローのために ASA が syslog メッセージをドロップする状態が生じる可能性があります。このような場合、次のような出力が表示されます。

```
ciscoasa# show logging queue
```

```
Logging Queue length limit : 512 msg(s)
2352325 msg(s) discarded due to queue overflow
0 msg(s) discarded due to memory allocation failure
Current 512 msg on queue, 512 msgs most on queue
```

デフォルトでは、ロギング キューは 512 個のメッセージを保持します。

## 一般的な問題

syslog メッセージが記録されていない問題が発生する場合は、次のオプションを検討します。

- コンソール ロギングを無効にします。コンソールへのロギングは通常の運用では有効にすべきではありません。コンソール ロギングを使用するのは、ロギング レベルが低いまたはトラブルシューティングが少ない状況でリアルタイムトラブルシューティングを行う場合に限定する必要があります。高いレートでコンソールへのロギングが行われると、ロギング プロセスでメッセージが大幅にレート制限されます。コンソールでは 9600 bps でしかメッセージをロギングすることができず、コンソールが画面に出力できる量よりも多くのログをコンソールにダンプしようとするまでログを記録しません。この場合、ログはロギング キューにバッファされ始めます。ロギング キューがいっぱいになると、メッセージはテールドロップされます。
- ロギングキューのサイズを512より大きくします。ロギングキューの最大数は、ASA-5505では1024、ASA-5510では2048、その他すべてのプラットフォームでは8192です。注：ロギング キューは syslog の「バースト」に使用されます。syslog の持続レートが、ASA が複数の宛先に転送できるレートよりも速い場合、ロギング キューの制限がなくても十分な大きさになります。
- アーカイブの対象にしない個々の syslog メッセージを無効にします。 [no logging message <syslog id> コマンドを発行して、個々の syslog を無効にします。](#)
- ASA のディスク ( フラッシュ ) へのロギング メッセージに注意してください。フラッシュへの書き込みは、非常に時間のかかる処理になります。フラッシュへの過剰なロギングによって、ASA はメモリに syslog ファイルをバッファするようになり、最終的に使用可能なすべてのメモリ ( RAM ) を使い果たしてしまいます。さらに、フラッシュへの大量の syslog メッセージのロギングによって、CPU が上昇することもあります。フラッシュへのロギングはし

ベル 1 のメッセージのみにすることをお勧めします (これで重要なシステム イベントには対応できません)。

## **関連情報**

- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)